



SORA

web magazine 2013.jan. vol.07

India Andaman

インド・アンダマン

MAP
CLICK!

古見きゅうが捉えたゾウと泳げる唯一の場所、インド・アンダマン諸島。
見どころはゾウだけではなく活火山が生んだカラフルかつ特殊な海をご紹介。

photo & text : Kyu Furumi



tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2012
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.



Surprise

驚き



India Andaman
インド・アンダマン

Surprise

驚き



India Andaman
インド・アンダマン

世界に1頭の 泳ぐゾウ・ラジャン

こんなことがあってもいいのだろうか。15年ほどダイビングを仕事としてきたなかで、さまざまな海の生き物たちと出会ってきた。世界各国のさまざまな魚たち。イルカやクジラ、甲殻類にサンゴにウミウシなどなど、それぞれ数えきれない生き物たちと対峙し写真に収めてきたが、まさか海の中からゾウを撮影することになるとは思ってもいなかった。

こちらの海を泳ぐゾウの名はラジャン。推定60歳以上。もともとこのアンダマン・ニコバル諸島には、材木の運搬のために海を泳ぐゾウが多く居たらしい。その末裔がこのラジャ

ンというわけだ。現在海を泳ぐゾウはこのラジャン以外には存在しない。一般的にゾウの寿命は60歳前後といわれている。ということはこのラジャンが寿命を全うすれば、この世の中で海を泳ぐゾウは存在しなくなってしまう。

静かな余生を送るラジャンは一日に数回、気の向くままに海に入る。僕たちが一緒に泳ぎたくても気分が乗らなければ泳がない。幸運にもラジャンが海に入る際に立ち会うことができたなら、いろんな意味で貴重な姿の目撃者となることだろう。





Ocean

海

India Andaman
インド・アンダマン

tsumi-shima
タイバーの夢をつまあげていく



Ocean 海

カラフルで おちゃめな面々と出会う

アンダマン・ニコバル諸島はインド領とはいえ、地図上で見ればインド本土よりも圧倒的にミャンマーやタイに接岸している。海中の景観や棲息する生き物は、その名の通りアンダマン海のそれに限りなく近い。アンダマン固有種やインド洋固有種の生物たちが次々に目に飛び込んでくる。トマトアネモネフィッシュ、ルボックスプレニーなど、僕の好きな可愛らしいお魚がいっぱいだ。

今回の撮影で気がついたこの海の特徴として、他の海でなかなか見ることのないコウリンハナダイの大きな群れを挙げたい。モルディブやパラオなどでも見られるとのことだが、とにかく水深は深いし、個体数も多くはない。それが「Barren Island SE」というポイントでは水深20m台に、これでもか!というほど群れている。アケボノハゼも10m台からやたらと多いし、ツースポット・アンティアスの群れにもいとも簡単に会ってしまった。

個人的なことを言わせてもらえば「Minerva Ledge」という隠れの根のポイントの魚群が印象的だった。巨大なカムリブダイに群れにも遭遇し、接近しきれなかったが丸々と太ったタマカイも目撃。景観、大物、マクロまで目が離せないフォトジェニックな海。次回訪れる時は、さらに面白いものを色々と探し込んでみたい。僕の好奇心の針が激しく振れる要チェックの海なのです。



India Andaman
インド・アンダマン



Romance

ロマン

India Andaman
インド・アンダマン

活火山が生む特殊な海中環境



主たる海中の景観や生物はオーソドックスなアンダマン海とさほど変わりはないのだが、このアンダマン・ニコバル諸島のメインダイビングサイトとなるBarren島には、現在も活動を続ける活火山が存在するため、溶岩が島周辺の海中まで流れ込んでいる。そのため海の中にも独特な黒い砂地が広がっている。僕も、なんとなく白い砂地に慣れてしまっている感があるので、この一面に広がる黒い砂地には驚いたが、ソフトコーラルや海の色、魚たちの色も際立って見える。

なによりこの溶岩たちが、僕らには到底見ることもできないような地球の内部から湧き上がってきたのだと考えると、どうしてもワクワクしてしまう。「溶岩の養分でこんなにも魚たちは元気なのかな?」「このなかに何かとんでもない大発見の鉱物は混じってないのかな?」これらの溶岩は僕にとっては未知の世界へのスイッチような存在となった。

Action

行動



India Andaman

インド・アンダマン



アンダマン・ニコバル諸島に到着し、クルーズが出発するまでに少し時間があるため、島内の観光ツアーに出かけてみた。観光地となっているアンダマン刑務所では、島の歴史などに触れることができる。ちょっとドキドキするような刑務所ならではの施設もあるので、ぜひ楽しみにしてもらいたい。当初は、まさに辺境の地のようなイメージを持っていたが、空港のあるポートブレアは交通量も多くなかなかの発展っぷり。でも車道をのんびり牛が歩いていたりする。秘境のようなそうでもないような…。絶妙なバランスを持つアンダマン・ニコバル諸島。そんなギャップに僕のこころはガッチリ掴まれましたでした。

秘境と都会のバランス



Information

●国名：インド共和国 ●ビザ：日本にて出発前にビザ取得が必要。 ●パスポート残存期間：パスポート残存6ヶ月以上で余白2ページ ●言葉：ヒンディー語だが一般的に英語も通じる ●時差：日本との時差は-3時間 ●電圧：電圧は交流110～220V プラグはAタイプ ●水：ミネラルウォーターを飲むこと。水道水は飲めない ●行き方：日本各地よりインド チェンナイへ。チェンナイホテルに1泊。翌朝国内線にてポートブレアへ。ポートブレア到着後、送迎車で港へ。夜、ポートブレアを出港。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく

